

平成27年度第2回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：「若者による社会課題の解決」
- 2 日時：平成27年7月24日（金）
- 3 場所：岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館（きらめきプラザ）
2階 ゆうあいプラザ 大会議室
- 4 参加者：学生団体、NPO等で地域の活性化や若者の政治参加を促進するために活動している方々：7名

5 知事挨拶

今日は若い皆さんに社会問題の解決というテーマでお話いただくという機会ということで、とても楽しみにしてきました。人を助ける活動を通じて、仲間も自分も元気になるし、幸せになることができる、とても意義深いことだと実感している。

皆さんの話を伺い、県や大人が皆さんを応援できることがないか、皆さんの意見を是非伺いたい。

6 発言内容

【社会活動を行う若者を増やす取組】

- ・ 団体を法人化して、資金面でも活動しやすくしている。実行委員になるとイベント等への協賛のお願いや大人へのインタビューなど、学べることが多く、この活動を通じてメンバーの人材育成をしている。
- ・ 学内のイベントで経験を積んでから一般の活動に参加するなど、ハードルを下げて学生が気軽に参加できるよう取り組んでいる。複数の学生団体に所属するメンバーも多く、団体間での横のつながりができている。
- ・ ロコミだけでなく、友達と一緒に活動に参加すると、「楽しい」と思って興味を持つ学生も多い。
- ・ センキョ割りの中心メンバーを育成していくため、積極的に代替わりを行っている。大学3、4年生のメンバー中心のイベント等でも、必ず大学1年生、2年生などの新しいメンバーも入ってもらう。学生が前に出て活動PRなどを経験することによって、メンバーの育成をしている。
- ・ 学生たちの集まる空間があるかどうか、団体活動が活発かどうかの指標になっている。実際に社会活動をしている人と触れ合えることが大切で、「ここに行けば、いつでも活動している人たちに会える」という空間を設けるということが重要だと思う。
- ・ 複数の学生団体が合同で、学生向けの団体紹介パンフレットを作って配布したり、学生がよく見るツイッターやフェイスブックで広報している。これをきっかけに、他県の大学の学生が岡山に来てくれて、座談会を開催することができた。

【活動を通じてメンバーの成長や、自分自身がやりがいを感じる時】

- ・ 責任を持って仕事を任せるときに、人は成長する。地域の人と一緒に事業に取り組んだときには、迷惑をかけられない、という意識がメンバーの成長につながったとを感じる。
- ・ 献血推進の活動をしていて、患者さんから「手術をして楽になったよ」という声を聞くと、自分たちが役に立っているという「やりがい」を感じるし、献血イベントに参加してくれる子どもたちが、自分たちの活動に興味を持っていてくれるということを感じられると嬉しい。

【活動に当たって困っていること等】

- 大学に期日前投票所を設けることについてのアンケートを実施したところ、授業を受けに来る時に投票できることなどから、7割の学生が投票に行くと答えた。
選挙管理委員会に問い合わせると、投票箱の設置、人員の確保、二重投票の防止など、大学に投票所を設置する体制の整備や予算の確保が必要であるとのことだった。選挙に関心を持っている学生は多いということを知ってもらって設置の検討をしていただければと思う。
- 活動拠点を確保することが困難。現在は、ゆうあいセンターの会議室の賃料を学生で分担しながら活動している。L i e n s（リアン）は、学生団体を結ぶ中間組織として、思ったことを実現できる場に近づけるために、大人からの意見と学生の意見を蓄積するプラットフォーム的な役割ができたらと思って活動している。
- 満月バーの活動で、屋外でイベントを行う際に保健所への申請等が必要であるが、学生はどこへ申請したら良いのか分からない。許可や認可の申請先を教えてくれる窓口、アドバイザーとなる人、団体があればありがたい。
- 若年層の献血者を増やすために活動しているが、現在、血液製剤の90%近くは50歳以上の方が使っている。少子化が進行すると将来の需給バランスが崩れてしまう。フランスなどでは子どもをたくさん生むと所得税の減免等の支援がある。国だけではなく、岡山県でも一層の少子化対策を進めてほしい。
- 大阪の例で、1億円規模で学生の活動に予算を組んでいる例がある。学生が活躍できる場に予算配分をお願いしたい。また、アンテナショップを活用して都市部においての移住・定住促進の取組を進めれば、岡山を応援したい、岡山に興味を持つ人を増やすきっかけになると思う。
- 自分たちがやろうとしている取組が、既に県や市で実施されている例も多い。県や市で取り組んでいる事業について、もっと知りたい。県外への発信とともに、県内県民への発信も行っていきたい。
- 学生が会社を立ち上げる際のメリットが感じられない。学生起業家に対する優遇措置があれば、岡山の学生の経済的活動も活性化されるのではないかと。県内の優秀な学生も他県の大企業に引き抜かれてしまう。行政において、県内企業と優秀な学生が出会い、両者をつなぎ合わせる場があれば、県外への人材流出が防げるのではないかと。

7 知事まとめ

- 私を含めた若手知事が「イクボス」宣言をして、少子化対策に全力で取り組んでいる。
- 岡山への移住者が最近増えていることから、先輩移住者の声を聞く場を作るなど、県でも積極的に移住・定住への取組を行っているところであり、事業実施と合わせて、皆さんに知っていただくための広報が重要であることを改めて感じた。
- 人々の役に立つことをする、人に喜んでもらうことが人生最大の報酬であると思う。それをサポートしてくれる大人をいかに見つけるかということが、皆さんのチャレンジであり、私もサポートしていきたい。